



最後の日誌

▼3月21日（木） ●●

成績が返されましたが結果は…。なんだかんだで、この一年間は、相当軽く構えていたような気がします。もっとやるべきことはたくさんあったし、勉強量も足らなかった。T大学やその他の有名国立大の現役合格体験談を読むと、やはり高一から着実に受験勉強を始めている人が多いですが、高二の春から始めて成功している人も多いようです。すこし遅いスタートですが、どん底に落ちた今だからこそ、謙虚に努力したいと思います…と、初めての定期テストのときも同じようなことを書いた気もしますが、信じてもらえるのも今回が最後でしょう。しかし、今回は口ばかりでなく、自分でも勉強しているという実感があるので、こんな反省文を書くのも、これが最後です。一年間、本当にありがとうございました。来年のよろしくをお願いします。

(←間違っても学級通信には載せないで下さい(笑))

☆桁外れ → レニウム

▼3月22日（金） ●●

今日は引っ越しで、部活関係のことなら前みたいなことを語れる自信がありますが、やめます。早稲田の問題、犀川先生が一番嫌うだろうなとか思ったが、まあとやかく云える立場ではない。『笑わない数学者』の冒頭だったと思うので御覧いただきたい。そして森先生の文章の虜になってもらいたい。順番とか決まっていなから、どこからでも…。つい語り始めそうになったが自制。この前、数学のノートを見直したら、余白にT木先生の

言葉が書かれていることに気づいた。「温泉みたい」という台詞のインパクトが大きすぎて忘れかけていたが(2/6の記事参照)、「これはパスカル16歳のとき、お前らとタメだ。でも、日本のパスカル諸君も負けてはいないでしょう」という言葉に感動したんだけど…。そしてモーレーの定理。「これは非常にきれいな性質です」と。たとえば夕陽が綺麗というときと同じだろうか？ 個人的なことではあるが、T木先生のような方が「きれい」という言葉を口にするとき、その「きれい」は私の使う「きれい」とも「キレイ」とも「綺麗」とも違うような気がするがままある(文理の別でなく)。森先生の「綺麗」も、ときどき。濫用していい言葉ではないのだろう…。そういうことを一気に考えたので、今更アウトプット。最後の最後に不可解な(今回のことでもない)文章ですみませんでした。ご寛恕のほどを。

☆レニウム → 村雨の霧もまだひぬ槇の葉に霧立ちのぼる秋の夕暮れ

*

学級日誌を見て、君たちの一日の様子を想像してみるのには、担任にとって楽しいことの一つである。適当な美辞麗句で埋められたページを見ると本当にガッカリさせられるが、一生懸命書いてくれる人もたくさんいて、今年一年楽しく学級日誌を読むことができた。来年、新しいクラスで日誌を書く順番が回ってきたら、ぜひ、いっぱい書いて担任に提出しよう。「元15Rの生徒はスゴイな!」と、新しい担任に思われるようになってほしい。